



(2000円) 特 許 願 (特許料2000円)

昭和48年9月26日

特許庁長官 青 藤 英 雄 殿

1. 発明の名称

電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法

2. 特許請求の範囲に記載された発明の数

3. 発 明 者

住 所 ヤマトシカミソリヤギ
大和市上草柳105番地の3
氏 名 ノ マサ アキラ
堀 野 政 章 (ほか1名)

4. 特許出願人

住 所 シブサカシヤロイヤリティ
静岡県静岡市彌生町648
氏 名 フリガナ カセイコウヤク
多 摩 工業株式会社

5. 代 理 人

代 表 者 鈴 木 常 司
住 所 東京都中央区京橋3丁目5番地 竹町ビル (電話561-5762)
氏 名 (5614) 弁 理 士 野 沢 睦 秋

6. 添附書類の目録

(1) 明 細 書 1通
(2) 図 面 1通
(3) 委任状 1通
(4) 願書原本 1通

(通称)



141 明 細

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 50-58242

④ 公開日 昭50.(1975) 5.21

② 特願昭 48-108660

② 出願日 昭48.(197) 9.26

審査請求 有 (全5頁)

庁内整理番号

6617 44

⑤ 日本分類

31 C0

⑤ Int.Cl²

A61K 7/15

明 細 書

1. 発明の名称

電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法

2. 特許請求の範囲

1. 融点³⁰が体温附近の粘結性基剤と潤滑性粉末基剤³¹と他の化粧料助剤とを混合することを特徴とする粉末状の電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法。

2. 熔融状態にある融点³⁰が体温附近の粘結性基剤³¹と潤滑性粉末基剤³²と他の化粧料助剤とを混合し、冷却して後成形することを特徴とする固形状の電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は改良された電気カミソリ用ブリシエーピング化粧料の製法に関するもので、剃り心地が快適であり、電気カミソリの切れ味を向上

させると共に良好な切れ味を持続せしめ、しかも剃り終った後容易に払拭し得るものである。

現在電気カミソリ用としてブリシエーピングローション、タルカムパウダー、マイカパウダー添加物等が知られているが、ローション類は剃り終った後の皮膚刺激があり発赤を生じたり、油分によるぬめりがあり、爽かな感触が得にくい欠点があり、パウダー類は皮膚の分泌物や水分を吸着する利点はあるが、塗着性が悪く使用中に剝離して衣類などに落下して汚損せしめ或いはマイカパウダーが皮膚に密着し、払拭しにくく、白っぽく残存する等の欠点があったが、本発明者は種々実験研究の結果このような欠点のない本発明を得たのである。

本発明に於ける融点が体温附近即ち30~43℃程度である粘結性基剤としてはミリスチルセチ

レート、庶糖脂肪酸エステル、セチルラクトレート、トリラウリン酸グリセリンエステル、デカノイックミリスレート、エチレングリコールジステアレート、エチレングリコールデカノイックレート、ココアバター、ミリチルミリスレート、アセチル化ソルビタンパルミテート、アセチル化グリセリンモノパルミテート、ステアリン酸エチルエステル等であり、これらの1種又は2種以上を混合して使用するものであり、添加量は1~10重量%程度である。³_加
<sup>8_加
粒状の
球形状、多面体状の
 剤としては粒径10~100 μ 程度で潤滑性及び吸着性が良好で軟質なものであり、多孔性ジビニルベンゼンビニールポリマー、タルク、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリテトラフルオロエチレン粉末、ポリ塩化ビニル粉末、シルク</sup>

シルクパウダーは吸湿性、潤滑性の良好なものである。マイクロクリスタリンセルローズは吸湿性が良好であると共に賦形補助剤ともなるものである。

上記の基剤に添加される他の化粧料補助剤としてはグリチルレチン酸ジカルシウム、グリチルレチン酸メチルエステル等の抗炎症剤、メントール、カンファー等の清涼剤、オキシフエニルエチルアミン、ジヒドロキシフエニルモルフォリン、イミダゾリン誘導体、塩化アルミニウム等の起毛剤、香料、着色料等であり、これらを適宜混合使用するものであり、これらの添加量は1~5重量%程度である。

本発明は融点が体温付近である粘結性基剤1~10重量%と潤滑性粉末基剤98~85重量%と他の化粧料補助剤1~5重量%とを十分に混合攪

パウダー、マイクロクリスタリンセルローズ、ナイロン粉末、デンプン粉末、第二リン酸カルシウムアバタイト粉末等の粉末であり、これらを適宜の割合で混合使用するものである。斯る³_加
粒状の
 潤滑性粉末の添加量は98~85重量%程度である。多孔性ジビニルベンゼンビニールポリマーは粒径20~100 μ 程度のものがよく透明であり、着色が容易で潤滑性が大きいものである。タルク、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウムは粒径10~100 μ 程度のものがよく粒径が10 μ 以下であると皮膚に白さが残り、透明性が劣り、粒径が100 μ 以上となると皮膚への附着性が劣る。ポリエチレン粉末、ポリプロピレン粉末、ポリテトラフルオロエチレン粉末、ポリ塩化ビニル粉末は粒径10~100 μ 程度のものでよく、撥水性、撥油性、潤滑性の良好なものである。

拌しアトマイザー処理して後60~100メツシユの篩を通して粉末状製品とするか、前記の粘結性基剤1~10重量%と³_加
粒状の
 潤滑性粉末基剤98~85重量%とを十分に混合攪拌しアトマイザー処理し、次で他の化粧料補助剤1~5重量%を添加して混合攪拌しアトマイザー処理して後60~100メツシユの篩を通して粉末状製品とするか、前記の粘結性基剤1~10重量%と³_加
粒状の
 潤滑性粉末基剤とを十分に混合攪拌しアトマイザー処理後混合攪拌しながら50℃に加熱し、粘結性基剤を熔融³_加
粒状の
 して潤滑性粉末基剤に吸着せしめ、次で室温にまで冷却し、他の化粧料補助剤1~5重量%を添加し十分に混合攪拌し、アトマイザー処理して後60~100メツシユの篩を通して粉末状製品とするものであり、前記の粘結性基剤2~10重量³_加
粒状の
 %と潤滑性粉末基剤98~85重量%とを十分に

混合攪拌しアトマイザー処理後混合攪拌しながら40～50℃に加温し粘結性基剤を溶融して潤滑性粉末基剤に吸着せしめ、次で室温まで冷却し、他の化粧料助剤1～5重量%を添加し、充分に混合攪拌しアトマイザー処理して後機械プレスしてスチック状の固形製品とするものである。

本発明による製品を男性100名に20日間使用した結果の塗布時のスチックの感触：項目A、ひげ、皮膚への付着性：項目B、剃り易さ：項目C、剃った後の皮膚の滑さ：項目D、剃った後の透明性：項目E、総合評価：項目Fは次表の通りである。

実施例		項目					
		A	B	C	D	E	F
1	X		80	82	88	89	84
	Y		12	6	5	8	9
	Z		8	12	7	3	7
2	X	63	80	81	85	89	82
	Y	31	13	4	2	8	11
	Z	6	7	15	13	31	7
3	X	57	80	81	81	90	79
	Y	35	11	7	9	5	13
	Z	8	9	12	10	5	8
市販品	X	51	45	62	14	12	15
	Y	31	24	25	21	20	13
	Z	18	31	13	65	68	72

但、Xは非常に良い、Yはかなり良い、Zは普通

上記の結果よりしてひげ、皮膚への付着性、

剃った後の皮膚の滑かさ、透明性が極めてよく、しかも切れ味を向上し良好な切れ味を持続させることが明らかである。

本発明によるブリシエーピング化粧料は融点が体温附近である粘結性基剤の配合によって潤滑性が良好にしてひげに付着している皮膚の分泌物を良好に吸着する軟質の潤滑性粉末基剤と溶融或いは軟化した粘結性基剤とがひげに付着し、カミソリの刃の磨耗を軽減し、刃の損傷を防止し、カミソリの摺動運動を円滑迅速にすると共にひげを乗らげその切断を容易にし、剃り心地を快適となし、カミソリの切れ味を向上し、良好な切れ味を持続し、剃り後った後に付着物を容易に払拭し得るものである。

次に本発明の実施例を示す。配合割合は重量%で示す。

実施例 1 粉末状製品

A	タルク	79
	トリラウリン酸グリセリンエステル	6
	マイクロクリスタリンセルローズ	3
	シルクパウダー	6
	ナイロン粉末	5
B	メントール	0.1
	グリチルレチン酸メチルエステル	0.1
	香料	0.5
	オキシフェニルエチルアミン	0.3

990gのAを容量9L、2.2KWのミキサーで5分間混合攪拌し、アトマイザー処理する。次で加熱冷却ミキサーで50℃に加温し10分間混合攪拌し、溶解したトリラウリン酸グリセリンエステルと共存する潤滑性粉末基剤に付着せしめて後30℃まで混合攪拌しながら冷却し10gのBを

3g
加入

添加し2分間混合攪拌し、アトマイザー処理した後100メッシュの篩を通して粉末状製品とする。

実施例 2 スティック状製品

A	タルク	78
	ココアバター	4
	マイクロクリスタリンセルロース	5
	シルクパウダー	6
B	ジビニルベンゼンビニールポリマー	6
	メントール	0.1
	グリチルレチン酸メチルエステル	0.1
	香料	0.5
	オキシフエニルエチルアミン	0.3

990#のAを容量9L、22KWのミキサーで5分間混合攪拌し、アトマイザー処理する。次で加熱冷却ミキサーで50℃に加温し10分間混合攪

B	メントール	0.1
	グリチルレチン酸メチルエステル	0.1
	香料	0.5
	オキシフエニルメチルアミン	0.3

990#のAを容量9L、22KWのミキサーで5分間混合攪拌し、アトマイザー処理をする。次で加熱冷却ミキサーで50℃に加温し、10分間混合攪拌して溶解したデカノイックミリスチート、粒状の 3字加入
及びミリスチルセチレートと共存する潤滑性粉末基剤に付着せしめて後、30℃まで混合攪拌しながら冷却し、次で10#のBを添加し更に、2分間攪拌して後、アトマイザー処理を行った後機械プレスしてスティック状製品とするものである。

出願人 ポーラ化成工業株式会社

代理人 野 澤 隆 秋

拌して溶解したココアバターを共存する潤滑性粉末基剤に付着せしめて後30℃まで混合攪拌しながら冷却し、次で10#のBを添加し更に2分間混合攪拌して後アトマイザー処理を行った後、機械プレスしてスティック状製品とするものである。

このようにして得たスティック状製品は硬度が高く割れ、欠けを防止し、外面は鏡面光沢を有し、商品価値を高め得るものである。

実施例 3 スティック状製品

A	タルク	75
	デカノイックミリスチート	2
	ミリスチルセチレート	3
	マイクロクリスタリンセルロース	5
	シルクパウダー	6
	アパタイト粉末	8

7.前記以外の発明者

住 所 フォクシングマカイガン 7-20-18
鹿児島市鶴沼海岸

氏 名 カ トウ セイ ジ
加 藤 精 二

手 続 補 正 書 (11 90)

訂 正 書

昭和48年10月25日

特許庁長官 斎藤 英 雄 殿

1. 事件の表示 昭和48年特許願第 108660 号
2. 発明の名称 電気溶融用アクリル樹脂に粘着剤の添加
3. 補正をする者
事件との関係 特許出願人
氏名(名称) ポーラ化成工業株式会社
4. 代 理 人
住 所 東京都中央区京橋3の5竹河岸ビル
氏 名 (5614) 弁理士 野 澤 睦 秋
5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日
(発送日 昭和 年 月 日)
6. 補正により増加する発明の数
7. 補正の対象 1. 発明の詳細な説明の項
2. 要約
8. 補正の内容

添付の訂正書及び委任状

特許庁

48.10.19

明細書を下記の通り訂正する。

1. 第3頁第5行「ミリチルミリステート」を「ミリスチルミリステート」とする。
2. 第3頁第11行「潤滑性」の次に「、付着性」を挿入する。
3. 第4頁第3行「シウムアバタイト」を「シウム、アバタイト」とする。
4. 第4頁第15行「ニル粉末」の次に「、ナイロン粉末」を挿入する。
5. 第5頁第1行「吸湿性、」の次に「吸油性、」を挿入する。
6. 第6頁第11行、第7頁第3行「基剤に」の次に夫々「付着または」を挿入する。
7. 第10頁第15行、第12頁第2行、第13頁第10行

「付着」の次に夫々「または吸着」を挿入する。

出願人 ポーラ化成工業株式会社

代理人 野 澤 睦 秋